IMF サーベイ

2014 年の世界経済

ラガルド専務理事、雇用と成長のための政策を引き続き重視するよう求める

2014 年 1 月 15 日

ラガルド氏： 先行きは明るさを増したが、危機を乗り越えるには、大々的な政策努力を継続するとともに、協調そして適切な政策ミックスが依然不可欠となっている（写真：プレスクラブ・ウェブキャスト）

- 世界の勢いは 2013 年末に増したが、2014 年に一段と強固に
- 世界の弱い回復の強化が、政策当局の 2014 年の重要課題
- インフレを懸念する以前に雇用の大々的な拡大の可能性がある

IMF のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は、楽観論が広まる一方で、持続可能な成長及び有意義な雇用のための政策を引き続き重視する必要があると述べた。

1 月 15 日にワシントン DC で同氏は、これまで 5 年間にわたる世界の政策担当者の尽力により、世界経済は最悪のシナリオを回避したと述べた。

米国・ワシントン DC のナショナルプレスクラブでラガルド氏は、2013 年後半に強まった世界の成長の勢いは、2014 年には主に先進国・地域の改善を背景に一段と強固になるとの見通しを示した。

ラガルド氏は「総じて、プラスの方向にあるものの、世界経済の成長は依然として余りにも低く、脆弱で一様ではない」と述べ「世界中で職を必要としている 2 億以上の人々のための雇用創出には十分ではない」と指摘した。「経済成長の恩恵を極めて少数の人々のみが享受している国が余りにも多すぎる」

ラガルド氏は、2014 年は節目の年だと述べた。第一次世界大戦の開戦から 100 年目、IMF の創設につながったブレトンウッズ会議から 70 年目、そしてベルリンの壁の崩壊から 25 年目に当たる。

ラガルド専務理事は「同時に、世界恐慌以来最大の世界的な経済惨事へと瞬時に変化した金融市場の不安が発生してから 7 年目に当たる」とも述べた。

「楽観論が広がっている。極度の凍結は過去のものとなり、先行きは明るさを増した」と述べたラガルド氏は「2014 年が別の意味、すなわち、経済的に『弱い 7 年間』が『力強い 7 年間』へと変化する記念の年となることを私は大いに期待している」と述べた。しかし、同氏は、危機を乗り越えるためには、大々的な政策努力を継続するとともに、協調そして適切な政策ミックスが依然不可欠となっていると付け加えた。

高まるデフレリスク

ラガルド氏は、先進国・地域の見通しは大きなリスクにさらされていると指摘した。インフレは多くの中央銀行のターゲットを下回っている。デフレリスクが高まっており、回復の大きな問題となる可能性がある。「インフレが妖精であるならば、デフレは断固として戦わなければならない鬼だといえる」

ラガルド氏は、金融危機の間、新興市場国・地域により世界経済は沈むことはなかったと述べた。これらの国や地域は途上国と合わせ、過去 5 年間にわたり世界経済の成長の 4 分の 3 を占めてきた。

しかし、経済サイクルの変化とともに、ますます多くの新興市場国・地域が減速状態にある。また、金融市場の混乱や資本フローのボラティリティに起因するリスクもある。

世界の回復を強化する

世界経済の成長は依然低調で、約 4%という潜在成長率を下回っている。ラガルド氏は「これは、世界的インフレという妖精が瓶から出てくることを心配する前に、世界が雇用を大々的に創出できる可能性があることを意味している」と述べた。

ラガルド氏は、世界の状況はひとつの極めて重要な義務を提示していると述べた。すなわち、持続可能な成長及び有意義な雇用のための政策を引き続き重視することである。「世界の弱い回復を強化しかつこれを持続可能にすることが、政策当局の 2014 年の重要課題である」

なかでも***先進国・地域***では、強固な成長がしっかりと根付いてから中央銀行はより伝統的な金融政策に回帰すべきである。各国は、非伝統的な金融政策により生まれた余力を、成長と雇用の活性化に必要な改革の実施のために使うべきである。

- *米国では*、成長は、民間需要を原動力に、また最近の予算折衝で財政面の制約が緩和されたことも背景に、間違いなく上向きとなっている。しかし、金融政策面での支援の時期尚早な撤回を避け、秩序ある予算プロセスに回帰することが不可欠であろう。

- *ユーロ圏は*、景気後退から回復へ変化しているが、成長は依然としてバランスに欠け、失業率は極めて高い。各国政府は労働市場参加率を押し上げ競争力を高める改革を促進しなければならない。

- *日本では*、中期的な財政調整及び成長の強化に不可欠な社会・経済改革で合資することが課題である。

*新興市場*の政策担当者は、資産バブルや債務の拡大といった金融の行き過ぎのあらゆる兆候に留意しなければならない。信用サイクルをより適切に管理できるよう金融規制を強化し導入すべきである。また多くの国や地域で、潜在成長力を解き放つために構造改革が必要になっている。

低所得国は、歳入の拡大など、直接的・間接的な外生ショックに対する防御の強化が必要である。また歳出については、今後も重要な社会プログラムやインフラプロジェクトに絞り込むべきであろう。

協力の精神

ラガルド氏は、IMF 創設の背景にあった多国間的な勢いに触れ、前進するためには、今日の世界には同じような協力の精神と世界的な結束が不可欠だと述べた。同氏は、IMF はまさにこういった協力の議論の場としてとりわけ重要な役割を果たすことができると述べた。

「2008 年の危機発生時から、我々は 154 の融資コミットメントを新たに結び、IMF 加盟国の 90%にあたる国々に技術支援を実施するとともに、可能な限り最善な政策助言を行うなど、危機に対する共同的な取り組みにおいて自らの役割を確実に果たしてきた」

ラガルド専務理事は「我々には、様々に変化する各パートがいかに整合的であるか、一国でおこったことがより広く世界経済にどのように影響するかなど、より大きく大局的に見ることが求められている。これこそ我々の強みのひとつである」と述べた。

関連リンク

スピーチを読む
着実な成長に不可欠な改革
成長を重視した IMF のアジェンダ
ポッドキャスト：全ての人々のための政策